

大人と同じように食べられるようになるためには、練習をして少しずつ食べられるようになっていきます。食べることの発達にも「発達の順番」があります。大人と同じように食べることができるためには、子どもの食べる機能の発達をきちんと発達の順番に乗せてあげることが大事です。

### 1. 発達の決まりごと

食べる機能の発達も身体の機能発達と同じように、「発達の原則」があります。

- ① 相互作用：食べる機能が発達していくためには、子ども本人が持っている発達する力と、周囲の人々など環境からの関わりのどちらもがバランスよく働き合うことが重要となります。
- ② 最適期：生まれてから1歳半から2歳くらいまでが最も発達する力が強い時期です。発達するには適した時期があるのです。しかし、この時期を逃したとしても発達しないということではありません。
- ③ 一定の発現順序：発達にはある一定の順番があります。基本的なことができないのに、いきなり応用編にはいけないのです。粗大運動では、首が座って→お座りができて→つかまり立ち→つたい歩き→独り歩き・・・といった順番があります。食べる機能で見ると、成人嚥下（顎と口唇を閉じて飲み込める→口唇を閉じて捕食できる→舌と上顎で押しつぶせる→奥歯ですり潰せる・・・という順番で発達していきます。
- ④ 予行性：発達には、次に進む用意ができています。ある動きがとても上手になると、次の動きが出やすくなります。
- ⑤ 直線的ではない：発達は、決して一気に進むものではありません。ある時は食べられたのに、次の日になったら食べられなくなったり、しばらく経つと突然上手になっていたりというふうに、必ずしも一直線ではなく、一進一退を繰り返しながら進んでいきます。
- ⑥ 個人差が大きい：食べる機能の発達にも個人差があります。同じ歳でもできたりできなかったりします。他の子どもと比較することはあまり意味がありません。人間ほど個人差が大きい生物はありません。

上記の発達の6つの決まりごとをよく理解して、無理なく発達を促すようにしていきましょう。



医療法人社団瑞祥会

いづか歯科クリニック

千葉県印西市草深2419-9 〒270-1337

TEL 0476-47-1179

iizuka-shika.jp